

住友ゴム工業のDXへの取り組み



住友ゴム工業株式会社
SUMITOMO RUBBER INDUSTRIES, LTD.

- 01** 社長メッセージ
- 02** DXビジョン・戦略
- 03** DX推進体制
- 04** DX人材育成
- 05** デジタル化に向けたIT環境整備
- 06** DX推進に係る進捗指標
- 07** デジタル技術利活用・推進活動の事例
- 08** セキュリティ対応

社長メッセージ

企業を取り巻く環境は、大規模な環境変化やモビリティ社会におけるCASE、MaaSの発展により急速に変化しております。当社では、2025年までに既存事業の選択と集中、成長事業の基盤づくり、DX推進に注力する方針を掲げました。当社における「DX経営」とは「事業の営みにより発生するデータを、人手を介さず経営に活用し、競争上の優位性を確立すること、そしてデジタル化されていく社外ネットワークと確実につながること」で、事業環境の変化に迅速に適応し続ける経営としています。

DXの推進による経営改革については、2025年までに基盤となる基幹システムの刷新が完了する見込みです。その他、サプライチェーンマネジメントや調達、技術・生産、人事領域でDXを推進中です。さらに、2022年よりDX人材育成を推進しており、DXによる業務の効率化・高度化を行います。

2026年以降はDX経営を実践し、持続可能な社会を見据えた事業ポートフォリオの最適化、成長事業のビジネス拡大により、Our Philosophyの具現化につなげてまいります。



住友ゴム工業株式会社
代表取締役社長

山本 悟

DXビジョン・戦略

DX経営の実現に向け、データドリブン経営、デジタル技術による業務の高度化、ソリューションサービスの提供という3つの戦略を推進します。ボトムアップとトップダウンの両輪でアジャイルに取り組むことで、デジタル技術を活用したイノベーションを実現し、Our Philosophyの具現化を目指します。

経営ビジョン (Our Philosophy)

未来をひらくイノベーションで最高の安心とヨロコビをつくる

DX経営

社内外のデータを確実につなぐことで、データとデジタル技術を利用した経営・業務の高度化と、最先端ソリューションでお客様を支援し、事業環境の変化に迅速に適応し続ける経営

データドリブン経営

データに基づく意思決定により、経営の高度化/精度向上

デジタル技術による業務の高度化

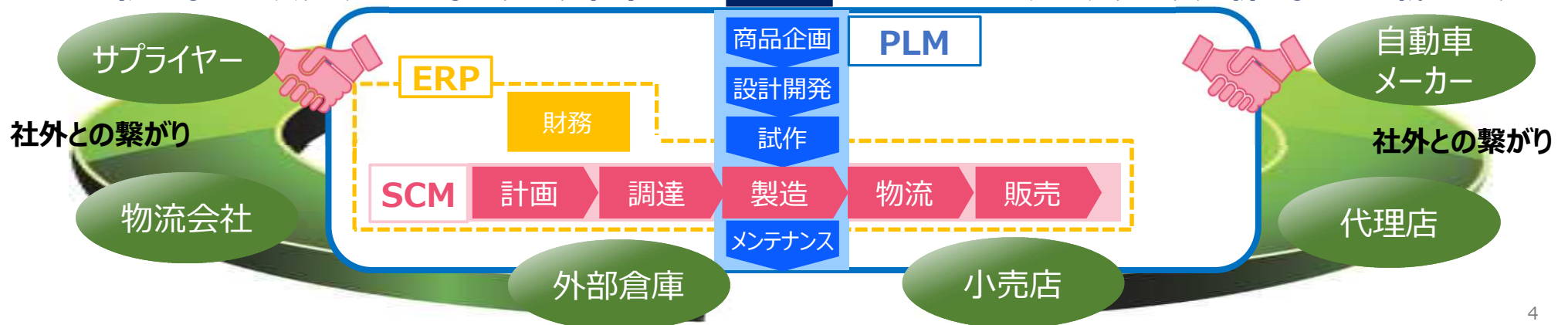
デジタル技術を活用し、業務の効率化やスキル向上を促し、従業員の満足度を高める

ソリューションサービスの提供

センシングコア(独自のデジタルソリューションサービス)の事業化によりお客様に新たな価値を提供

革新的なITシステム導入によるデータ収集と

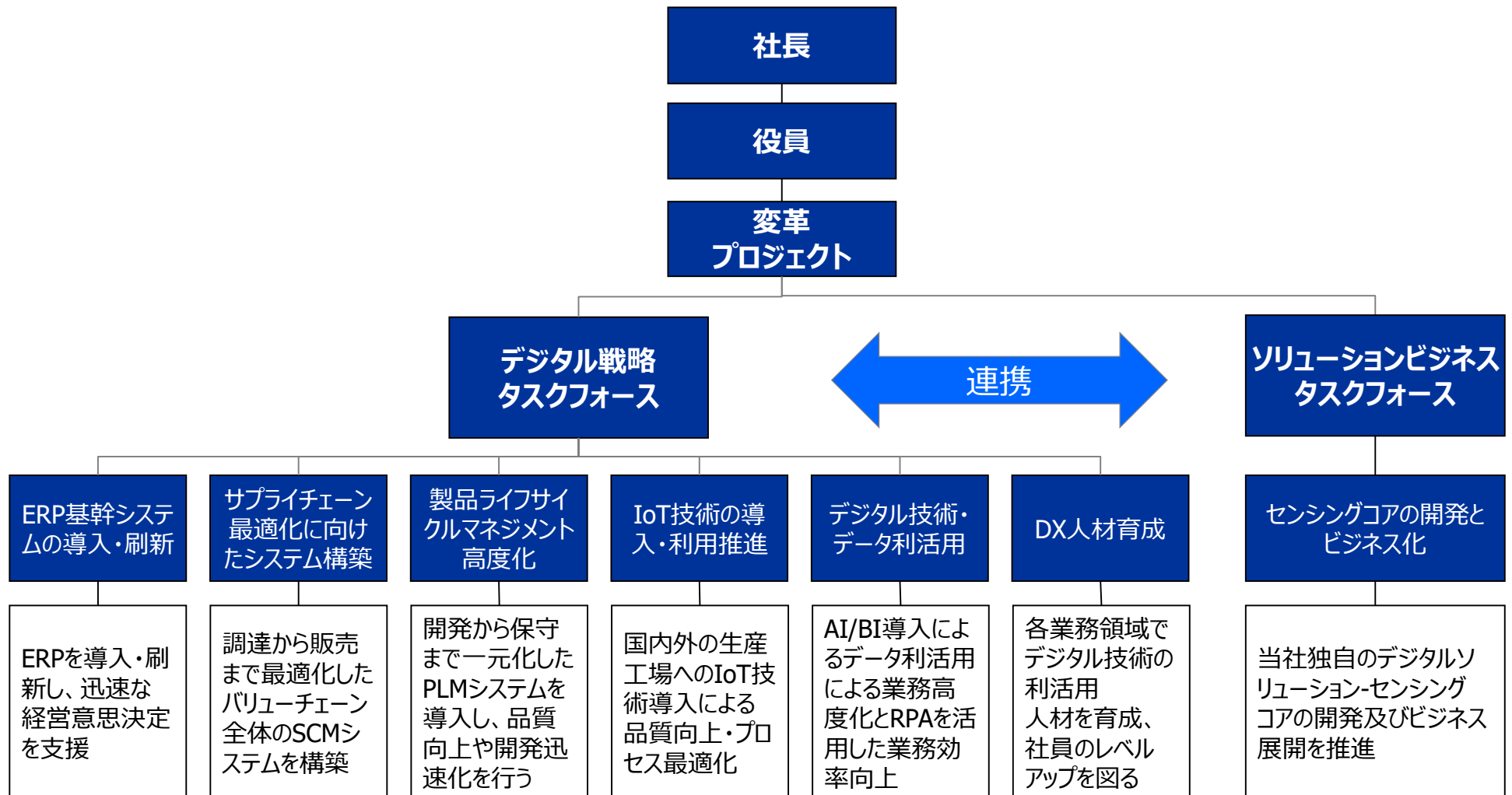
AI・BIを活用したデータ分析によるDX戦略実現



DX推進体制・役割

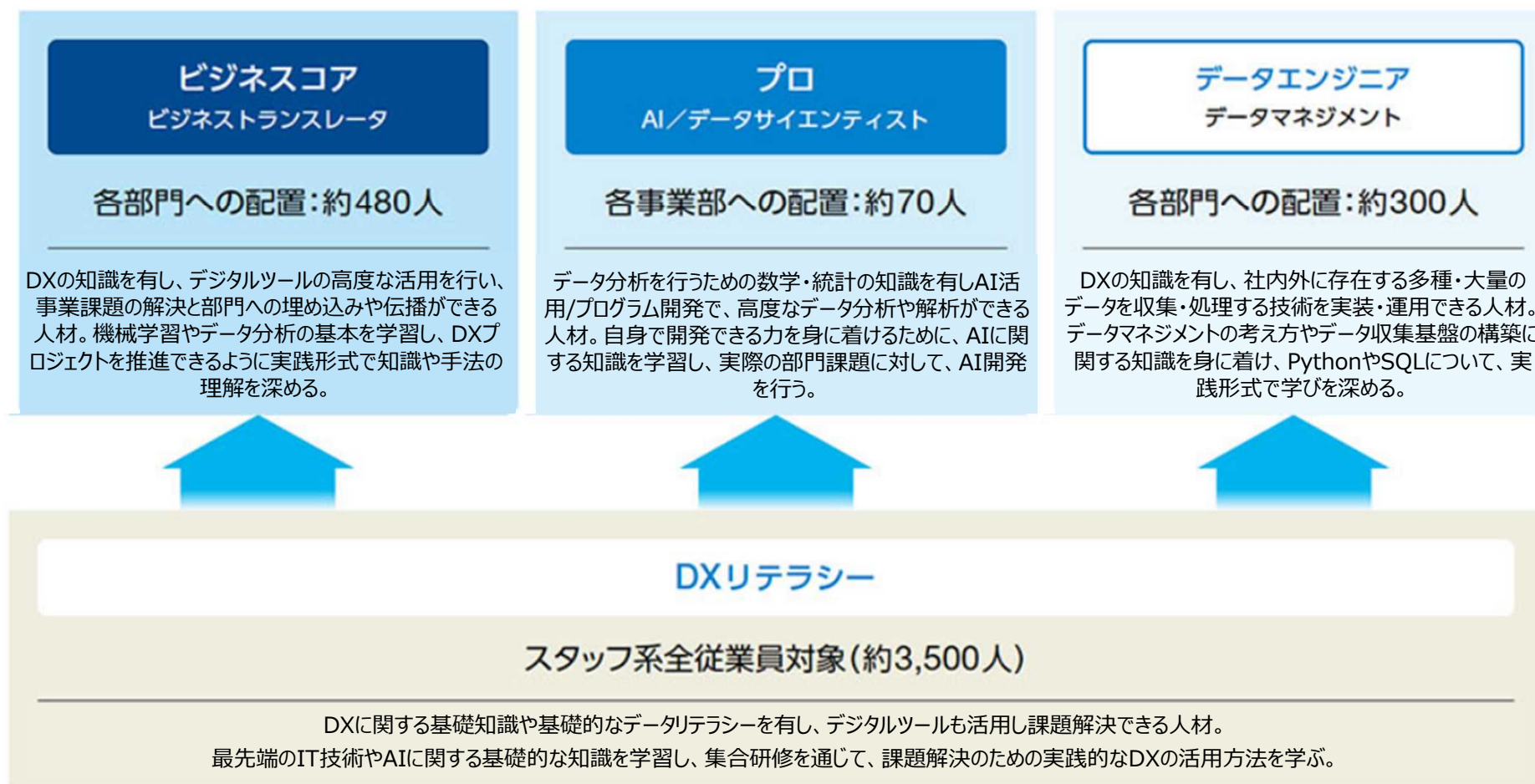
DX推進は全社的に取り組んでいます。その一環として、変革プロジェクト*の一部にはデジタル企画部が主導するデジタル戦略タスクフォースが設置されており、部門間連携を強化して推進しています。また、ソリューションビジネス等の他プロジェクトとも連携し全体統制を図り、担当役員がこれらをサポートし経営戦略に反映しています。

変革プロジェクト*：中期計画で発表した役員を中核に、課題解決を強力に推進するプロジェクト



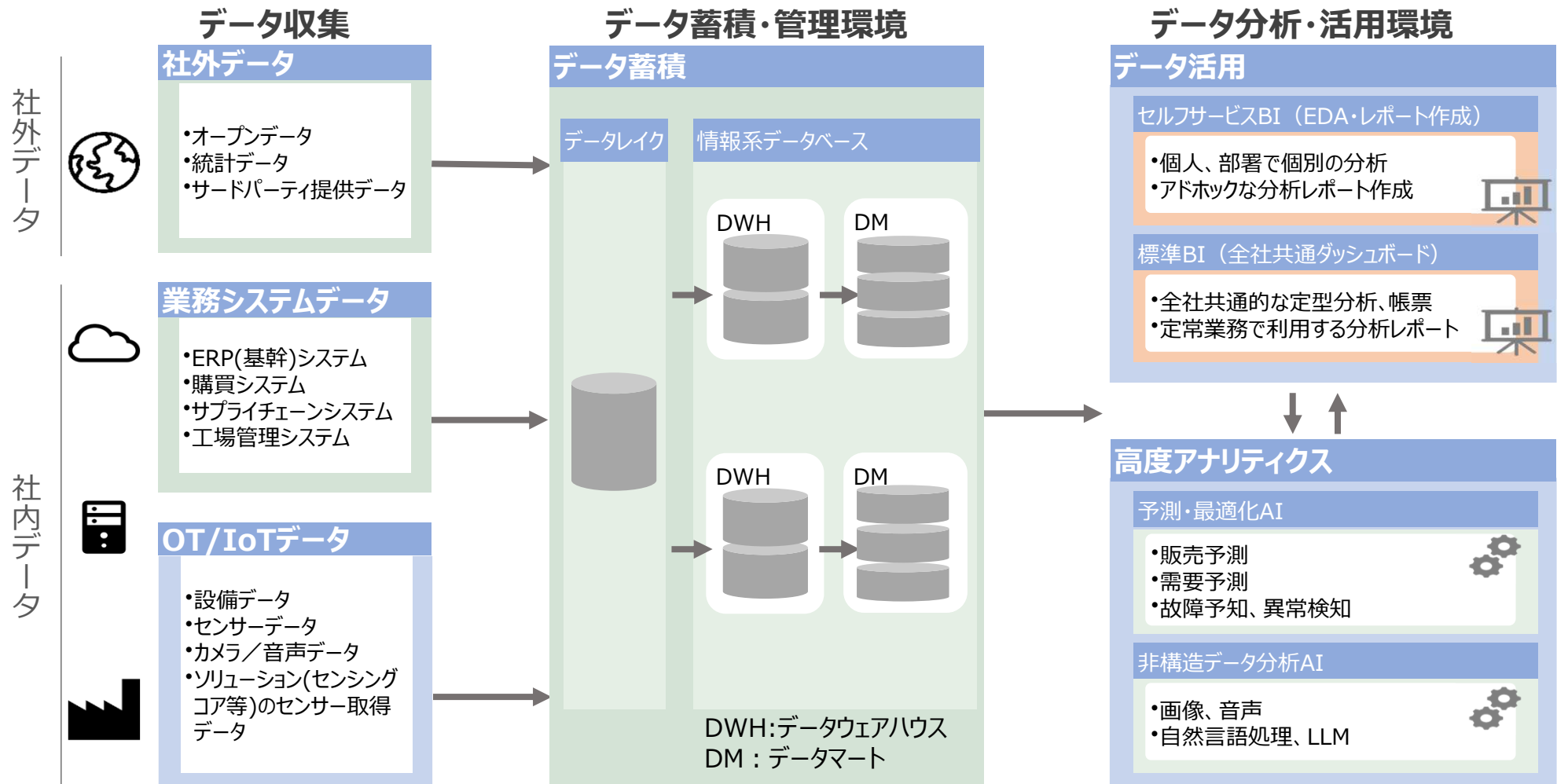
DX人材育成

DX推進に必要な3つの力に合わせて、DXリテラシー教育をベースに、ビジネスコア（ビジネスにDXを適応させ推進）、プロ（AIを活用し高度なデータ分析を実行）、データエンジニア（必要なデータの収集・活用を効率的に実施）の3コースで構成しています。2025年にはスタッフ系全従業員(約3,500人)を対象にDXリテラシー教育を行います。



デジタル化に向けたIT 環境整備

当社はデータの収集から分析までを一貫して行っています。多種・多様な社内外のシステムから、データを収集し、蓄積・管理しています。分析にはAI等のデジタル技術を活用し、BIツールを用いて可視化しています。社内でデータ管理を一貫して行うことで、意思決定や戦略立案を効果的に支援します。



DX 推進に係る進捗指標

DX推進に係る進捗指標（KPI）を設定し、DXの推進状況を確認することで、ソリューションビジネスの発展やデータドリブン経営、業務の高度化を推進し、全社のDX推進を促進いたします。

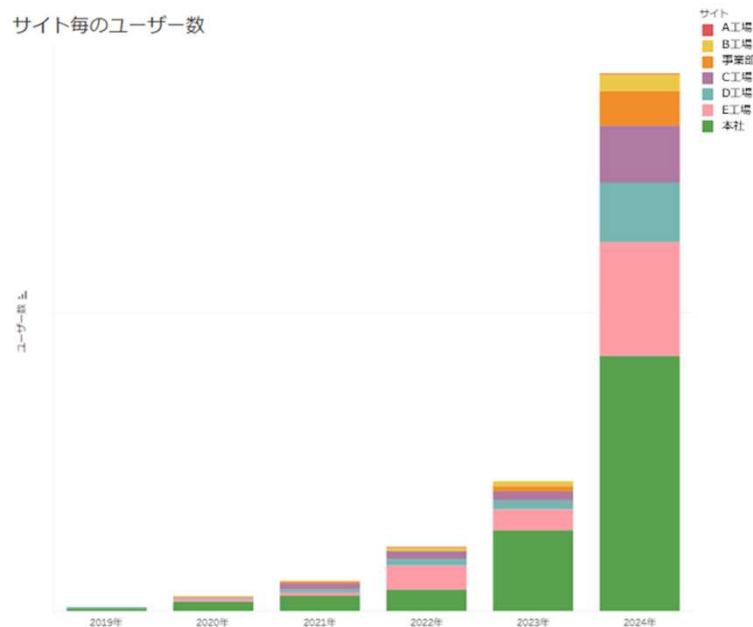
KPIの考え方		KPI	
DX人材育成	DXを迅速かつ効果的に推進するために、DX人材育成を行う。 当社のDX人材育成は基礎研修をベースに、DX推進に必要な3つのスキルセットに合わせて、3つの発展研修を設けています。(p.6参照) これらの受講者数を増やし、DX人材の育成を行います。	基礎研修	DXに関する基礎知識や基礎的なデータリテラシーを備えた人材 (DXリテラシー受講者数)
		発展研修	ビジネス課題に対してDXを活用した解決案を企画できる人材 (ビジネスコア受講者数)
			AI活用/プログラム開発で、高度なデータ分析・解析ができる人材 (プロ受講者数)
			社内外に存在する多様なデータを管理運用する技術を備えた人材 (データエンジニア受講者数)
デジタル技術の活用推進	業務の高度化や新たな価値創造のために、デジタル技術の活用推進を行う。 デジタル技術の活用推進の効果を具体的に測定するために、AI、BI、RPAの適切な活用とその成果の継続的なモニタリングを行います。	デジタル技術を活用しているプロジェクトの割合	
		デジタル技術が活発に使用されている割合 (アクティブ率、Vizの閲覧数)	
		デジタル技術によって削減された業務時間の割合	
システム連携	DX経営の実践に向けて、全社のシステム連携を推進する。 全社最適に向けて、社内システムの連携を計画立てて実行いたします。	各種システムの刷新・導入を計画通りに遂行する	

デジタル技術活用事例

全社的なDX推進のため、デジタル技術の利活用に取り組んでいます。具体的には、BIツール(Tableau)を導入しデータ可視化・分析を行い、業務効率化や新たなビジネス示唆を引き出しています。さらに、社内講習やコミュニティ活動を通じて知識を共有し、社員が安心してデジタル技術を活用できるよう支援しています。

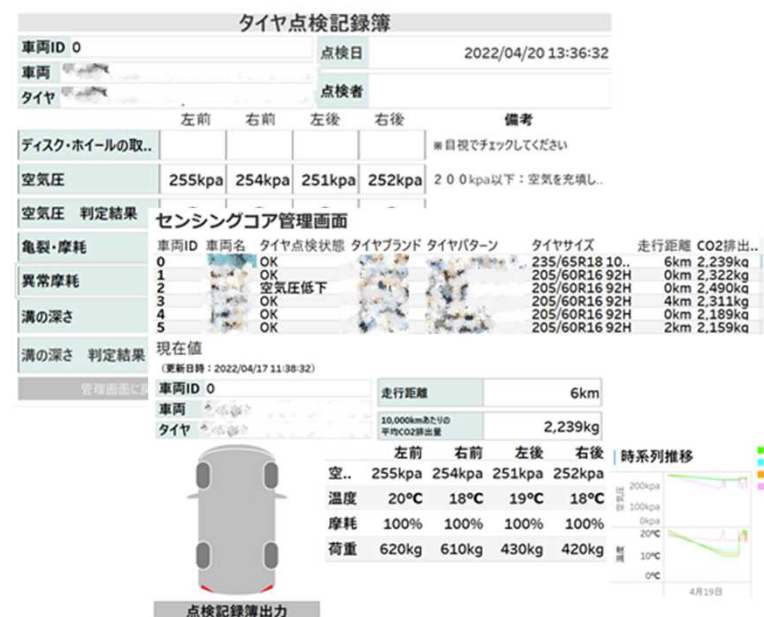
Tableau推進状況

本社及び各生産拠点でTableauの利用者が大幅に増加



Tableau利活用事例

各ビジネス領域において、現場自らTableauのダッシュボードを構築、生産状況など様々なデータをリアルタイムでモニタリング



社内外に向けたDX推進についての発信

DXやAI活用に関する最新情報・取り組みを促進するために「Digital Innovation Day」を設け、社長が社内に情報発信しています。また当社のデジタルソリューションであるセンシングコアについて、社長自ら製品発表を行っています。

社内交流イベントの様子 (Digital Innovation Day)



全社DXの推進や人材育成の状況並びに先進的な社内外事例の共有を行う参加型イベント。DXに関する議論と知識の共有の場として、参加者の活動内容やそこからの学び、そして前向きなチャレンジを共有し合っている。

デジタルソリューション（センシングコア） 記者発表会

4-2. センシングコアの事業化 ◆住友ゴム

2024年からビジネスを開始、2030年に事業利益100億円以上を目指す

◆CES初出展、新規顧客・パートナー開拓

◆中国スマートシティ化実証実験で採用

◆車両故障予測ソリューションサービスの展開

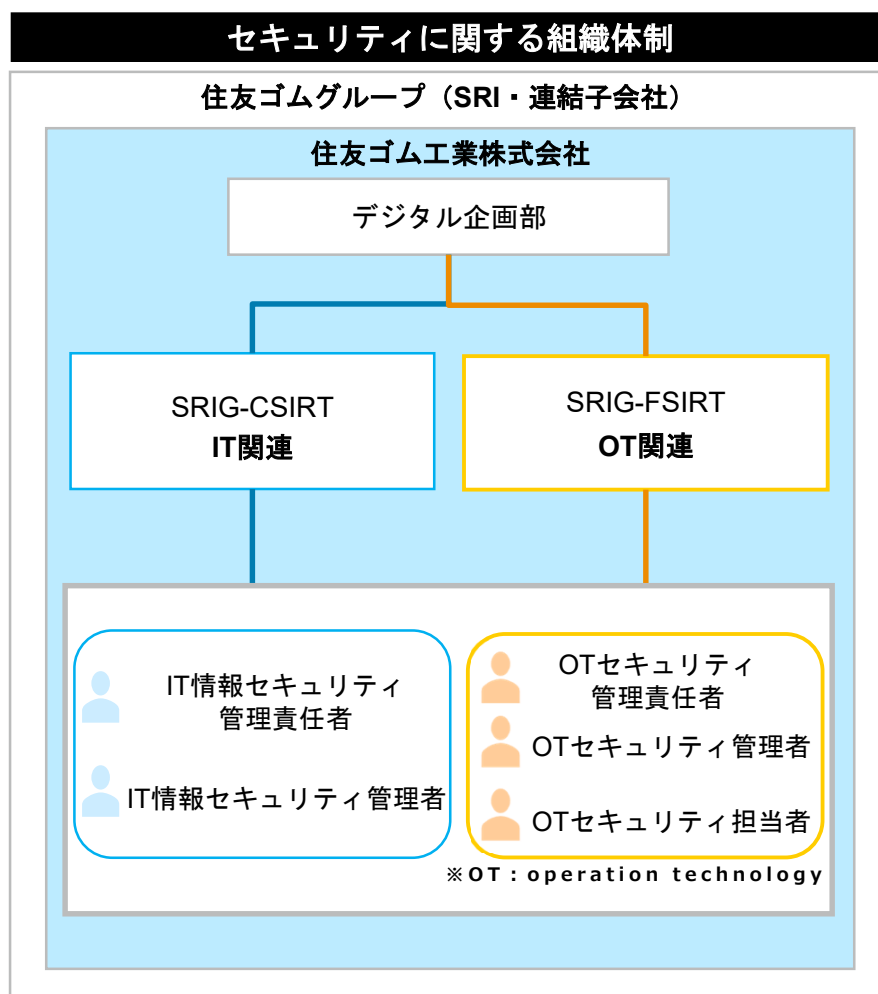
センシングコアの路面状態検知機能により、自動運転バスの安心・安全な運行管理をサポート

米国車両故障予知会社 Viaduct社と戦略的パートナーシップを強化。車両全体の故障予測ソリューションサービスの展開を加速

山本社長は、モビリティ社会の変革における競争が進んでいる中、自社のセンシングコア技術が交通事故ゼロや自動運転の実現に貢献すると述べ、CASEやカーボンニュートラルに向けた取り組みと新機能を発表することを説明した。

サイバーセキュリティ対応

当社ではグループ全体のサイバーセキュリティ対策として、デジタル企画部直下に「SRIG-CSIRT」、「SRIG-FSIRT」を設けています。各拠点・グループ会社にセキュリティ責任者を配置することによって、進化を続けるサイバー攻撃に迅速・適切に対応していきます。



SRI-CSIRT

(CSIRT:Computer Security Incident Response Team)

<役割>

サイバー攻撃から情報資産を守る

<内容>

グループ全体におけるITセキュリティの統括(方針・ルール制定など)

- ・IT情報セキュリティ管理責任者：各社の社長がこの任にあたる。情報セキュリティ管理責任者は事務局を任命する。

- ・IT情報セキュリティ管理者：事務局に任命された者が担当する。事務局を補佐し、「セキュリティマニュアル」の運用業務を担当する。

SRI-FSIRT

(FSIRT:Factory Security Incident Response Team)

<役割>

サイバー攻撃から工場を守る

<内容>

グループ全体におけるOTセキュリティの統括(方針・ルール制定など)

- ・OTセキュリティ管理責任者：各拠点におけるOTセキュリティ管理の適用・実施に責任を負う

- ・OTセキュリティ管理者：各拠点におけるOTセキュリティ管理の適用・実施の実務を担う

(必要に応じてFSIRTの支援を受ける)

- ・OTセキュリティ担当者：各拠点におけるOTセキュリティ管理の適用・実施の業務実施を担う (FSIRTと連携して業務を実施する)